



■発行所／(株)びゅ〜すまいる編集舗・みまもり未来プレス編集部
 ■2026年1月15日発行号 ■発行所・編集人／八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

TOUCH TO GO

<https://ttg.co.jp/>

ロッテアライリゾートに無人決済店舗がオープン

滞在の安心を支える24時間の買い物環境

宿泊施設における利便性の向上は、滞在満足度を左右する重要な要素である。新潟県妙高市に位置するロッテアライリゾートでは、深夜や早朝でも気軽に買い物ができる環境づくりの一環として、24時間利用可能な無人決済店舗を新たにオープンした。

本店舗は、ロッテアライリゾートを運営するLOTTE Hotel Araiと、無人決済システムを開発するTOUCH TO GO(東京都港区)による初の協業事例である。2025年12月13日より稼働を開始し、TTGが提供する無人決済システム「TTG-SENSE」が導入された。

利用者は商品を手に取り、そのまま店舗を出るだけで決済が完了する仕組みとなっており、レジ操作や待ち時間は不要である。夜間帯も無人で営業できるため、時間を気にせず利用できる点が大きな特長だ。

無人でも「安心」を支える仕組み

ロッテアライリゾートは、ウィンタースポーツを楽しむ来訪者をはじめ、国内外

から多様な利用者が集まる大型リゾート施設である。早朝や夜間に行動する宿泊者も多く、軽食や飲料、日用品を求めるニーズは年々高まっていた。一方で、夜間の有人対応には人手や運営コストの課題があり、持続可能な運営方法が求められていた。

今回導入された「TTG-SENSE」は、AIカメラとセンサーを活用し、手に取った商品を自動で認識する無人決済システムである。遠隔監視や遠隔サポート体制も整えられており、無人でありながらも状況を把握できる仕組みが構築されている。これにより、夜間に一人で利用する高齢者や、言語に不安のある海外旅行者にとっても、安心して利用できる環境が確保されている。

また、設置に必要なスペースが小さく、電源があれば導入可能な点も特長である。施設内の空きスペースを有効活用できるほか、多様な決済手段に対応す

ることで、利用者の機会損失を防いでいる。さらに、AIによる購買行動の分析により、売場改善や商品構成の最適化にもつなげることができる。

無人決済店舗は、省人化だけを目的としたものではない。必要なときに、必要なものを、安心して手に取れる環境を整えることは、滞在中のストレス軽減や安全性の向上につながる。ロッテアライリゾートの取り組みは、観光施設における「利便性」と「見守り」の両立を示す一例といえるだろう。



シニアが元気になると 日本が元気になる！

**元気シニア倶楽部
会員募集中!!**

—入会費・年会費なし—

一般社団法人

日本 S 元気シニア総研

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-4-5 第3伊藤ビル4階
 tel.050-5533-3100 fax.03-5791-5859 Email. info@genkisenior.com



パルシステム静岡と浜松市が協定を締結

—— 宅配の「いつも」が見守りにつながる ——

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、日常に寄り添った見守りの仕組みが求められている。生活協同組合パルシステム静岡（静岡県富士市）は、浜松市と「はままつあんしんネットワークに関する協定」を締結し、宅配インフラを活用した高齢者見守りに協力する。協定締結式は2026年1月29日、浜松市役所で開催される予定だ。

浜松市では、高齢化の進行に伴い、65歳以上の単身世帯や夫婦のみ世帯が増加している。地域とのつながりが希薄になる中、高齢者が社会的に孤立し、不安を抱えながら生活することを防ぐため、市民や民間事業者、行政機関が連携する見守り体制の構築が進められてきた。その中核となるのが「はままつあんしんネットワーク」である。

このネットワークは、郵便配達や新聞配達、宅配など、地域の日常を支

える事業者や近隣住民が、高齢世帯の様子をさりげなく気かけ、普段と異なる変化に気づいた際に、地域包括支援センターなどの支援機関へ情報をつなぐ仕組みだ。異変を早期に共有することで、重篤な事態を未然に防ぐことを目指している。

週1回の訪問が生む「気づき」

パルシステム静岡は、週1回の宅配を通じて、同じ地域・同じ利用者宅を継続的に訪問している。配達担当職員は、商品を届ける中で、玄関先の様子や利用者の体調、ちょっとした会話の変化など、日常の中にある小さな違和感に触れる立場にある。

協定締結により、こうした「いつもと違う」気づきを、浜松市へ迅速に共有できる体制が整う。特別な見守り業務を新たに設けるのではなく、通常の宅配業務の延長線上で行われる点が、

この取り組みの特徴だ。日常に溶け込んだ見守りだからこそ、利用者に過度な負担や緊張感を与えず、自然な支援につながる。

協同の力で支える地域の安心

パルシステム静岡の理事長・細谷里子は、「協定締結により、商品お届けの際に感じた小さな異変を、確実に浜松市へつなぐ仕組みが整う。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる『支え合いのまちづくり』に貢献していきたい」と語る。

パルシステムグループは1都12県で事業を展開しており、各地で高齢者向けの見守りサービスや、行政と連携した地域支援に取り組んできた。宅配という生活インフラを生かし、地域に根差した役割を果たす姿勢は、生活協同組合ならではの強みといえる。

日々の宅配が、地域の安心を支える目となる。パルシステム静岡と浜松市の協定は、見守りを「特別なもの」にせず、日常の延長として実装していく一つのモデルケースとして注目される。

pal*system
パルシステム静岡

<https://kddi.smartdrone.co.jp/>

アイデアの**商品化**を推進する 発明事業化促進
身近な**発明展** 身近なヒント発明展

特許料 3億円!

アイデア募集中

特許料 6千万円!

発明家たちの登竜門

企業の 新製品 開発に

小さな創造を社会に活かす
一般社団法人 発明学会

<https://www.hatsumei.or.jp/>

こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!!』

ブレンモンジュ・林野均の「シニア`萬、遊記」第100回

健康診断を鵜呑みにしない

年末に、日本経済新聞の記事に気になるものを見つけました。日本経済新聞と日経BPの医療サイト「日経メディカルオンライン」の共同調査で、医師の30%が過去1年間に「不要な入院」を患者にさせた経験があると答えたそうです。さらにこのうち4割は、病床利用率を高めるために病院から指示があったと回答したそうで、過剰な入院によって医療費が膨らんでいる実態が浮かんできた、という内容です。(調査は11月10～19日にインターネットで実施し、全国の医師7951人が答えた。)

私のこのコラムの60回目で、医師の近藤誠先生のことを書きましたが、近藤先生は健康診断は不要であるという提言をなされています。

た。それに感化され私もリタイア後は健康診断を受けていません。

近藤先生の説では、医療費が膨らむだけではなく、健康診断を受ける人に直接的な悪影響があるということです。健康診断を受けさせるのは病気を早期発見して適切な医療を受けさせ、病気を治療するのが目的のように喧伝されていますが、実際は医者にとっての「顧客」である患者を見つけたり、あるいは患者を「作り出す」のが目的だということでしたが、その説が今回立証されたように思えます。

そして不要な検査や過剰な投薬によって患者が逆に健康を害するということです。極端な例としてはレントゲンの放射能によってガンが発症した例もあるそうですし、ま

た、高血圧に対する薬剤の投与によって血流が疎外され、認知症が発症しやすくなるといった例もあるようです。

だから健康診断を受けるな、とは言えませんが、受けるなら個人で十分に考え、納得したうえで受けるようにしたほうがいいと思います。



*画像はイメージです

Author / 林野 均 (はやしのひとし)

プランニング・ブレン・モンジュ代表 / 一般社団法人 日本元気シニア総研研究委員

『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。 <https://planningbrain.com>



デイサービス生活相談員ネットワークの
『生活相談員』講座

ちっちゃいマメをおっきく育て、
夢のある未来を創造します。

株式会社スリービーンズ

<http://3beans.jp>

Let's enjoy your senior life

元気なシニアライフを
応援します！

<https://planningbrain.com>

シニアのためのコンシェルジュ

プランニング・ブレン・モンジュ

tel.090-3682-3310

シニアカー・電動車いす専門店「げんき工房」静岡市に初出店 運転免許返納後の移動を支える新拠点

高齢ドライバーによる事故が社会課題となるなか、運転免許証返納後の移動手段をどう確保するかは、高齢者本人だけでなく家族にとっても重要なテーマである。こうした背景を受け、シニアカー・電動車いす専門店「げんき工房」を展開するシンエンス(大阪府東大阪市)は、14店舗目となる「げんき工房 静岡店」を静岡市駿河区に開設した。静岡県内では初出店となる。静岡県の高齢化率は30.9%と過去最高を記録しており、県民の約3人に1人が高齢者という状況にある。一方で、日常の買い物や通院、地域活動を自家用車に頼ってきた人も多く、免許返納後に外出機会が減少するケースは少なくない。外出の減少は、身体機能の低下や社会的孤立につながる恐れがあり、移動手段の確保は生活の質を左右する重要な要素といえる。

「げんき工房」は、シニアカー(電動カート)や電動車いすの販売を通じて、高齢者の「自由に外出を楽しみたい」という思いを支えてきた専門店である。新車・中古車の販売に加え、不要になった車体の買い取り、出張修理まで一貫して対応し、利用者の生活に寄り添ったサービスを提供している。

同店の特長は、試乗を重視した販売スタイルにある。各店舗には試乗用の



車体が用意されており、専門スタッフが身体状況や利用環境を丁寧にヒアリングしたうえで、最適な1台を提案する。実際に「見て、触れて、乗って」から検討できるため、初めて利用する人でも安心して選ぶことができる。

また、来店が難しい場合には、自宅まで車体を持参して試すことも可能だ。購入後は自宅まで送料無料配送され、中古車でも1年間の保証が付くなど、アフターサポートも充実している(条件あり)。「買って終わり」ではなく、使い続けることを前提とした体制が整えられている点は、専門店ならではの強みといえる。

静岡店では、安定感と操作性を重視した【WheeMo イノーマ】や、使いやすさとデザイン性を兼ね備えた【WheeMo トモニア】など、外出を快適に支えるモデルを取り扱う。全国14店舗で無料試乗が可能なネットワークを活かし、地域に根ざした相談拠点としての役割も担っていく。

運転免許返納は安全確保のための前向きな選択である一方、移動の不安を伴う決断でもある。「げんき工房 静岡店」は、シニアカーや電動車いすという選択肢を通じて、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるための支援を行っていく。



www.flanet.jp

「食」を真剣に考えるひとのための資格！

食生活アドバイザー®の
活躍のフィールドはとっても広い

- 生産、流通、販売などの現場で
- 医療、福祉などの現場で
- 飲食の現場で
- 学校、家庭などで

食生活アドバイザー

検索



フリーダイヤル 0120-86-3593 TEL 03-3371-3593



一般社団法人

FLAネットワーク協会 (Food & Lifestyle Adviser)

食生活アドバイザー® 検定事務局